

# 東北大学病院での研修報告



グループ E

## 授業前の知識

グループメンバーそれぞれ専門が異なる。経済学専攻のメンバーは計量分析の手法や医療経済学の知識を持っていた。他メンバーは医療機器の仕組みや特徴・使われ方・医療機器制度に詳しい方や、薬剤師免許を持つ薬学に造詣の深い方もいた。

## 授業の目的

本研修では、東北大学病院の最新の医療機器を用いた診断・治療の場に参加する。そして、解決すべき課題を見つけ、五感を駆使した現場観察を通じて課題の抽出、ニーズステートメントの作成及びそれらの自分の研究や将来への活かし方を考えることを目的とした。

## 到達目標

東北大学病院眼科における現場を全体的に俯瞰した上で、ニーズの定義づけと選択ができる。大学病院や未来型医療の現状、課題点及び将来目指すべき姿を説明できるようになる。以上のことを目標として設定した。これらを現場観察や医療者へのインタビュー、グループワークを通して達成する。

## 授業内容

様々な現場を観察すること、またグループワークを主に行った。本グループの現場観察先は、眼科である。観察した現場は眼科外来の視察室・受付・処置室、眼科検査と眼科病棟などであった。また、総回診、症例検討会も参加した。グループワークでは、課題の言語化、深堀りするための観察、課題の明確化、影響の可視化・定量化というプロセスを行った。明確化した課題や影響が正しいか検証するため、医師へのインタビューも行った。

具体的には、以下のようなになる。まず、現場で観察した事実を付箋で書いて類別で分ける(写真1)。次に、この中から課題を抽出し、事

実・観察・問題点を分析する(写真2)。さらに、見つけた課題を深堀り、課題を明確化する(写真3)。最終日には2つのニーズステートメントについて25~30分程度の成果を発表した。

このプロセスを通じて、現場発信のニーズの大切さ、対象のスクーパップダウン、課題のスクーパップダウン、相手へインパクトをもたらすには特徴付けられたニーズの必要性について現場で体験した。

さらに、グループワークを通じて、個性の生かし方、視点を踏まえたディスカッション、リーダーシップ・効率性、タイムマネジメントについての重要性をより深く理解できた。

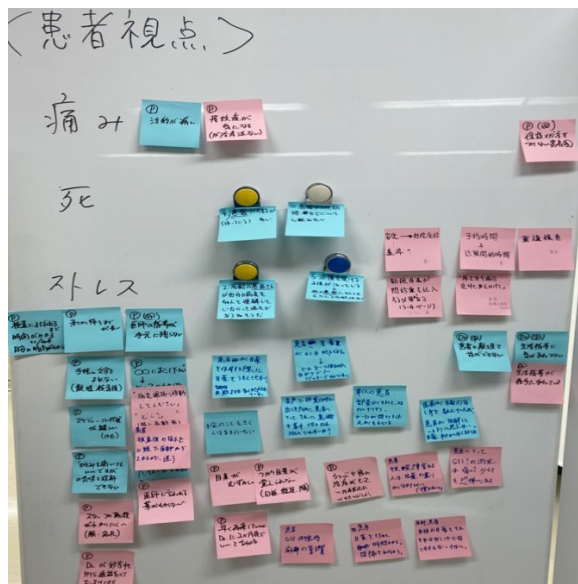


写真1：付箋の一部

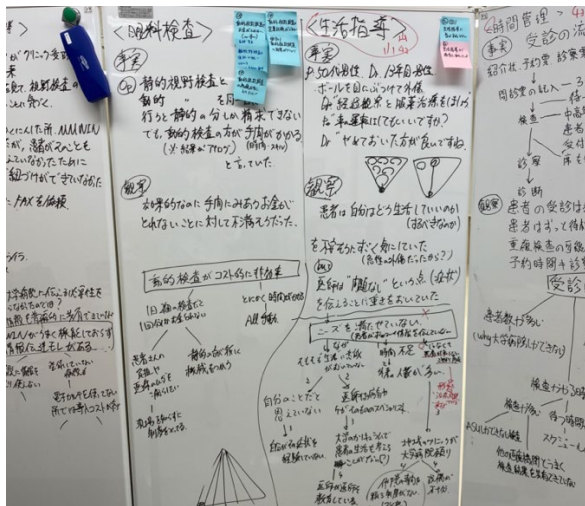


写真2：ホワイトボードの一部

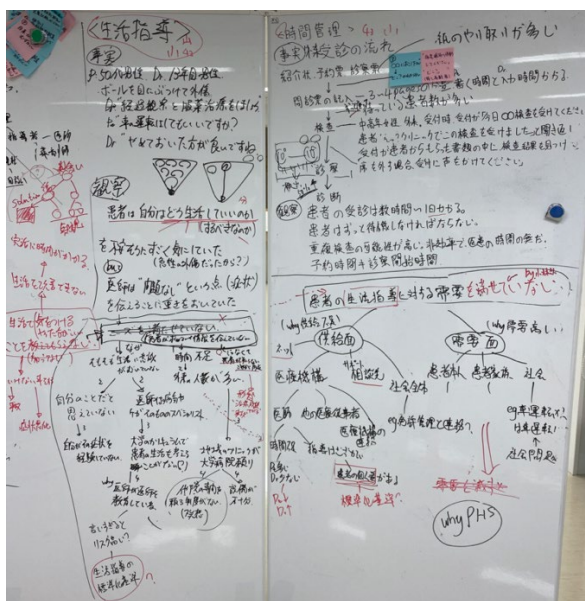


写真3：ホワイトボードの一部

## 研究や仕事などに活かせる点

現場研修での気づきを活かし、所属研究室で行うアンケート調査にも積極的に参加したいと考えている。今回のアンケート調査では新型コロナウイルス関係での調査も並行する可能性があるため、病院研修での気づきもからめながら、アンケート調査のアイデアを深めていく予定である。

また、東北大学病院を1週間じっくり、そして幅広く見ることで、医療現場の全体像をある程度把握できたため、自分のやっている研究がどう生きるのかというイメージを掴む基礎ができたと感じている。

## 影響を受けたこと

大学病院研修で、ニーズステートメントのアプローチを体験した。チーム・プロジェクトとして課題の言語化、深掘りするための観察、課題の明確化、さらに影響の可視化・定量化というプロセスを経験できた。

具体的には、二つのニーズステートメントを抽出した。一つ目は、「ガスタンボナーゲ治療でうつぶせをすることにストレスや不安を感じる患者にとって（対象）、うつぶせをより守ることで完治までの日数を減らすために（目的）、一人ひとりに合わせた快適かつ効果的な体位を提供する方法（問題）」である。2つ目は、「逆紹介ができず、症状が安定した再診患者数が多い大学病院にとって（対象）、新患を増やして、利益を増やすために（目的）、患者の大学病院と他の医療機関に対するイメージと現実のギャップを埋める方法（問題）」である。

この実践的・体験的な課題を深掘りするプロセスを通じて、課題を明確にする手法を把握でき、私たちの研究でもその考え方を活用できると感じている。

また、チームワーク、包括的な視点、比較検討、情報収集などに関する学びを得たため、とても有意義な研修だった。

## 来年度以降の改善点

一つのを深くみる時間、各自の興味に応じて見学先を決められる時間が増えるとなお良いと感じた。我々のグループでも、医療情報や診療報酬・医療事務に興味がある人、薬剤の管理に興味がある人、医療機器に興味がある人と興味は大きく分かれた。できれば一日、せめて半日程度自由に見学先を決める時間があれば、より良い深掘りができ、新たな気づきや学びが得られると感じた。

## 授業の限界

短期間での研修ということで、「広く見れば浅くなり、深く見れば狭くなる」のトレードオフが授業の限界ではないだろうか。前述のように、ある場所や人に張り付いて長時間観察することで見えてくる課題点は増えると予想されるが、それを行うと他の現場を観察することは不可能になってくる。

## まとめ

我々は未来型医療創造卓越大学院プログラムのバックキャスト研修として、東北大学病院にて8/17~21の5日間研修を行った。ニーズステートメントのアプローチを体験した。大学病院の現状や課題を学び、発見することを通じて未来型医療について考えることができた。